

平成25年度
学術情報システム総合ワークショップ
電子ブック取り組み事例

2013年9月13日

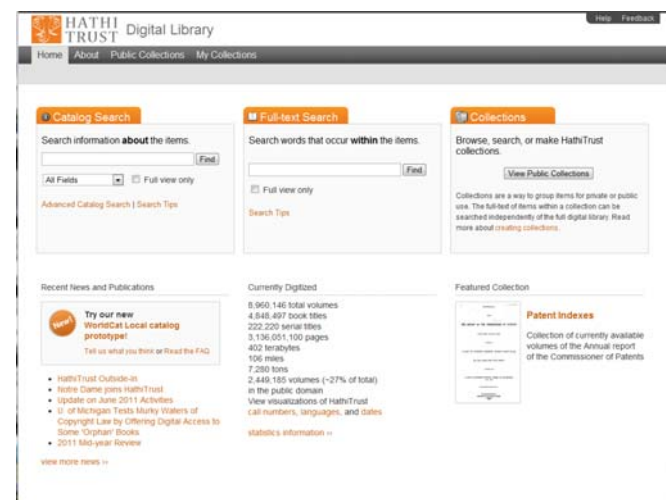
慶應義塾大学メディアセンター本部 入江伸

プロジェクト開始時の問題意識

米国:Google BooksからHathiTrust まで進んだ

- ▶ 雑誌・レファレンス資料の電子化は（ほぼ終了した）
- ▶ 図書館の大量電子化とサービス提供の時代を迎えている

- ▶ 米国の23の主要大学によって立ち上げられた、協同デジタルリポジトリ
- ▶ 学術研究利用を主眼にデザイン
- ▶ Google Book Searchのバックアップ的機能も担う
- ▶ 2013年1月現在、約1064万冊のコンテンツを収録（うちパブリックドメインは約330万冊）
- ▶ 紙の共同管理と長期保存へ
- ▶ Currently Digitized
 - 10,641,148 total volumes
 - 5,597,740 book titles
 - 277,169 serial titles
 - 3,724,401,800 pages
 - 477 terabytes
 - 126 miles
 - 8,646 tons
 - 3,303,874 volumes(~31% of total) in the public domain
- ▶ 著作権保護期間内の資料は、検索のみ可
- ▶ 著作権管理システムもある。



<http://www.hathitrust.org/>

中国:CADAL(China Academic Digital Associative Library)

- ▶ CADALは1999年に開始され、2009年に第一期が終了した。第一期は中国政府より、7000万人民币元（約8億4千万円）、アメリカより200万ドル（約1億6千万）の資金が投入され、およそ100万アイテムにおよぶコンテンツをデジタル化したという。同時に、OCRのシステム化、デジタル化センターの建設、デジタル化のコストについても説明があった。なお続く第二期は2009年8月より開始され、参加機関の拡大、国外との協力体制の構築を目指しているという。既にアメリカのInternet ArchiveやAdobeとの協力実績があるという。

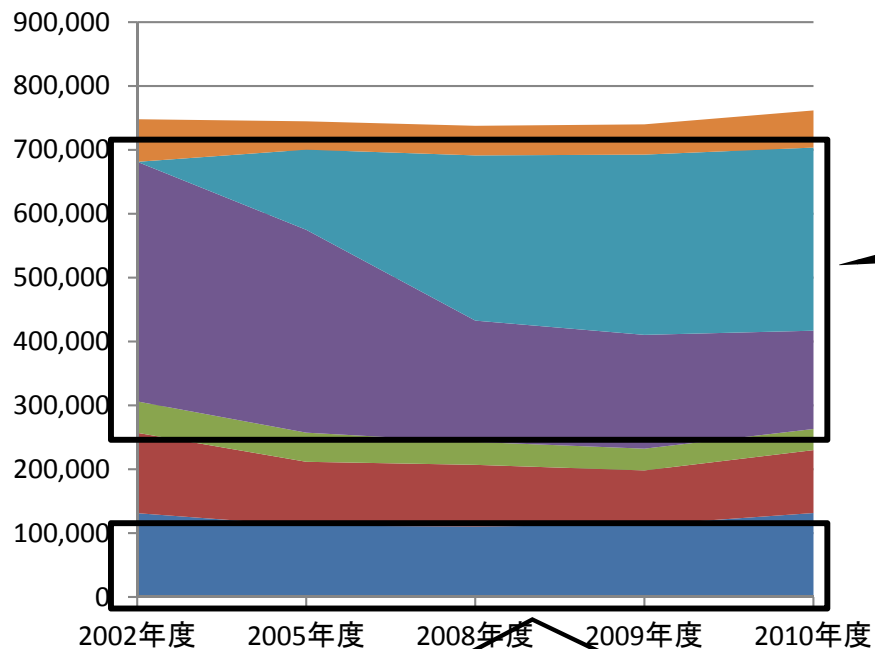
▶ <http://www.cadal.cn/>

The screenshot shows the CADAL website interface. At the top, there is a navigation bar with links for 首页 (Home), 项目动态 (Project News), 关于我们 (About Us), 标准规范 (Standards), 加入我们 (Join Us), 文档下载 (Document Download), and 管理平 (Management). Below this is a search bar with a search button and options for 高级检索 (Advanced Search) and 登录 / 注册 (Login / Register). The main content area features a 'Welcome to the CADAL' message and a '最新上传' (Latest Uploads) section with several book covers. A sidebar on the left contains links for 捐赠 (Donation), 版权公告 (Copyright Notice), and 致出版社的公开信 (Open Letter to Publishers). The bottom of the page is divided into five columns: CADAL新闻 (CADAL News), 业界新闻 (Industry News), 资源动态 (Resource News), 点击TOP10 (Click TOP10), and 搜索TOP10 (Search TOP10).

| CADAL新闻 | 业界新闻 | 资源动态 | 点击TOP10 | 搜索TOP10 |
|--|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> · CADAL项目后评价会议召开 2013-01-22 NEW · 日本国立国会图书馆副馆长池本幸雄一行来访 2012-12-03 · 董晨副主任会见上海图书馆业务处程燕伊处长一行 2012-09-03 · Internet Archive(IA)全球图书馆部主任Robert Miller来访 2012-08-01 · CADAL二期建设项目“技术支持图书馆的智慧服务专题论坛”通知 2012-06-23 | <ul style="list-style-type: none"> · 上海图书馆服务周开幕“罗氏藏书”特可检索阅览 2011-05-30 NEW · 发展好公共图书馆事业 2011-05-06 · 争雄终端电子书平台 汉王盛大遇劲敌 2011-03-06 · 数字出版与微博成图书会新亮点 2011-01-10 · 杭州数字图书馆率先实现“三阴融合” 2010-12-30 | <p>资源成果</p> <ul style="list-style-type: none"> · 已通过查重: 1,177,741册 · 质检数据: 260,558册 · 入库数据: 2,633,227册 · CADAL项目统计表(6月) · CADAL项目统计表(4月) · CADAL项目统计表(3月) · CADAL项目统计表(2月) · CADAL项目统计表(1月) · CADAL项目统计表(12月) · CADAL项目统计表(11月) | <ul style="list-style-type: none"> · 红楼梦(一) · 中国书法全集-商周金文卷 · 国城 · 中国书法全集-颜真卿一 · 玉麟先生文集(一) · 绘图真本金瓶梅 · 存素堂集续编(四) · 金瓶梅① · 新青年 · 中国书法全集-王羲之王羲之二 | <ul style="list-style-type: none"> · 论语 · 红楼梦 · 教育杂志 · 申报 · 金瓶梅 · 教育 · 史记 · 东方杂志 · 桐日集 · 新青年 |

和書は全く変わっていない

2002-2010の図書費の変化 大規模国立・私大大学比較(8学部以上)



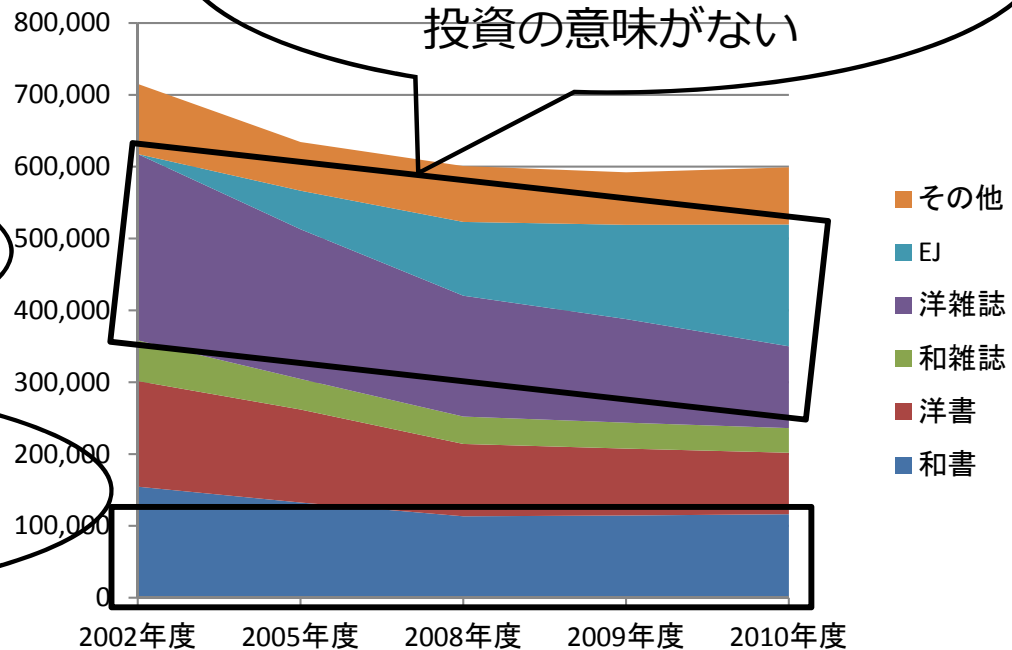
国立大学

和書予算は維持されている

円高による洋雑誌の価格変動は考慮されていない

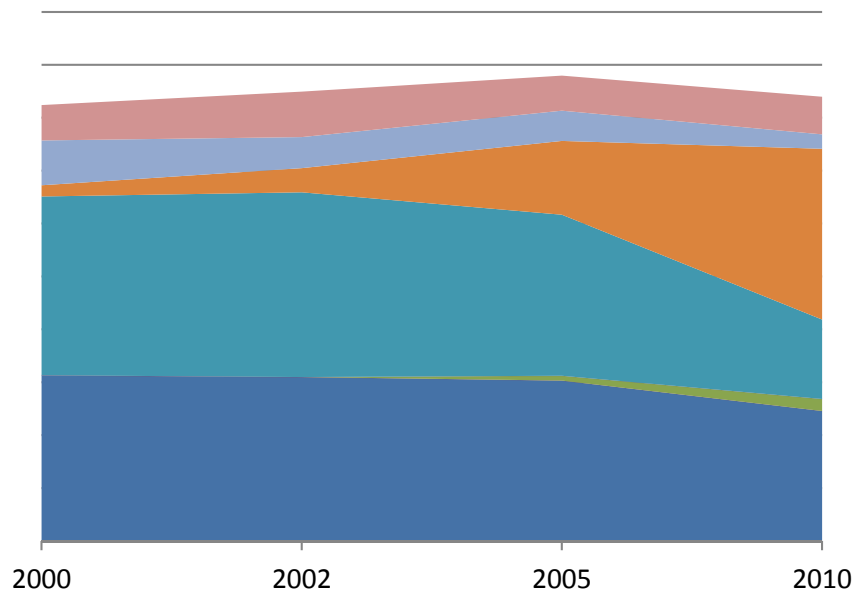
購入媒体の変換がおきている

予算削減が進んでいる
出版社の主張：電子化投資をして紙の売上が減ったら投資の意味がない



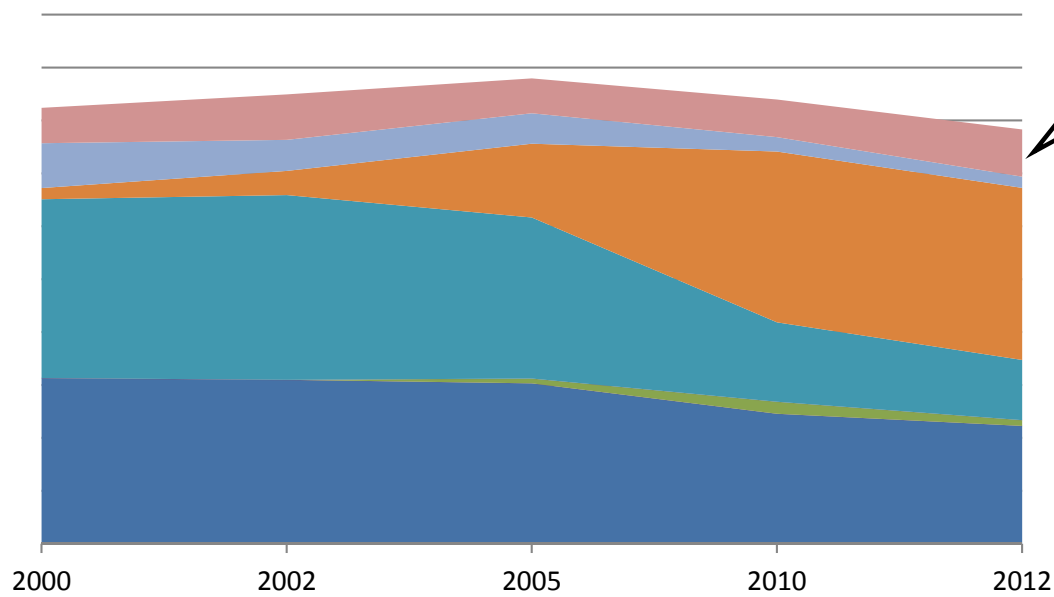
私立大学

私大は資料購入費は減っている これから和書を買う予算が大幅に減少する



- データベース
- 非図書
- 電子ジャーナル
- 雑誌
- 電子ブック
- 図書

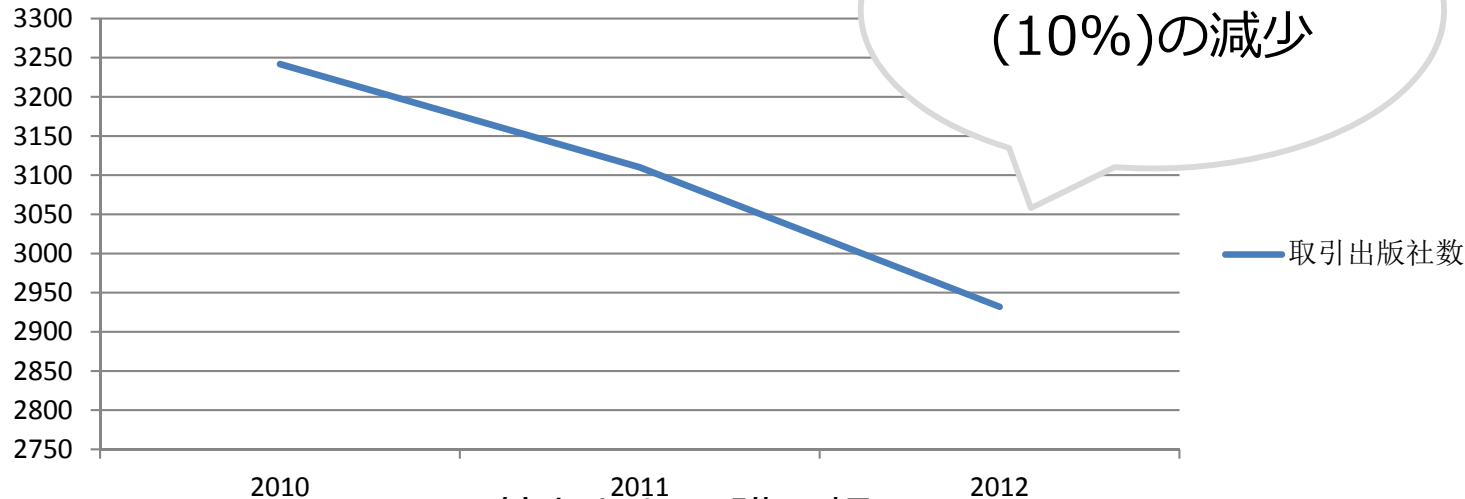
これからは円安・消費増税
和書予算がなくなる
和書電子化促進の予算確保が
できないだろう



- データベース
- 非図書
- 電子ジャーナル
- 雑誌
- 電子ブック
- 図書

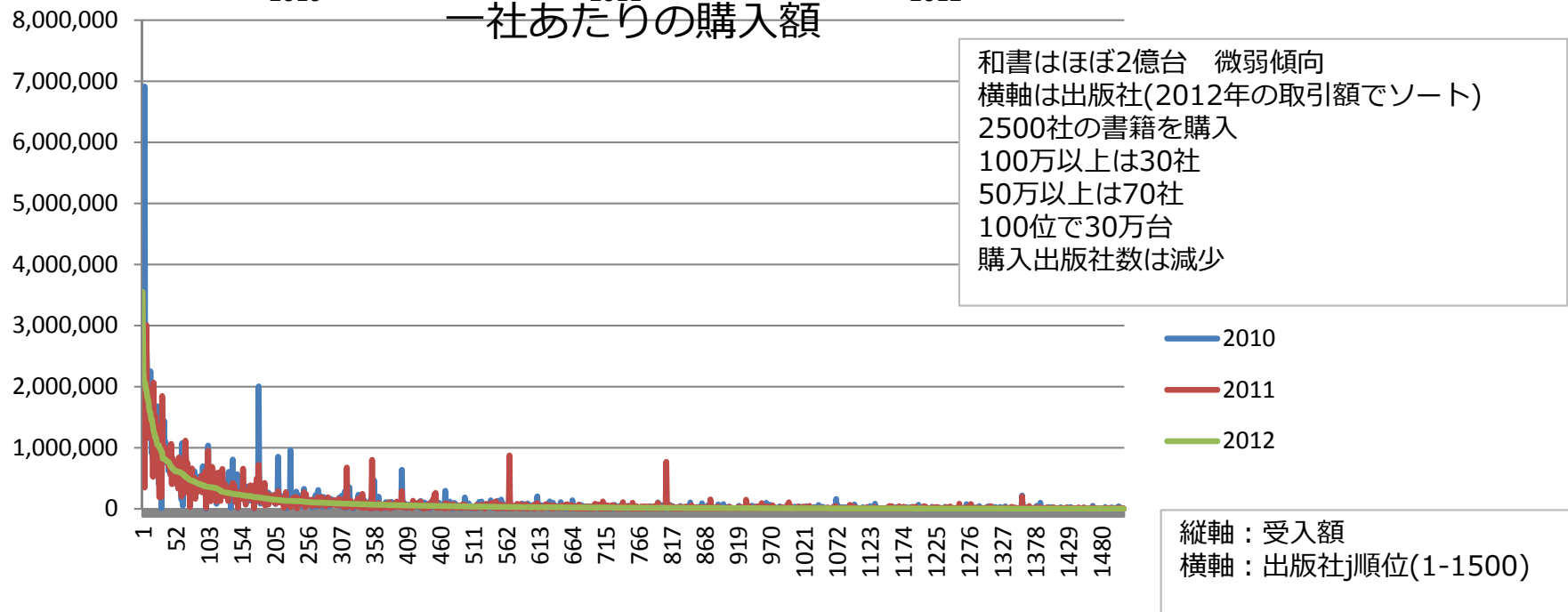
出版社は大学あたり400万円から1000円を売っている3000社がいる これが出版文化という実態なのか

購入和書出版社数



3年で300社
(10%)の減少

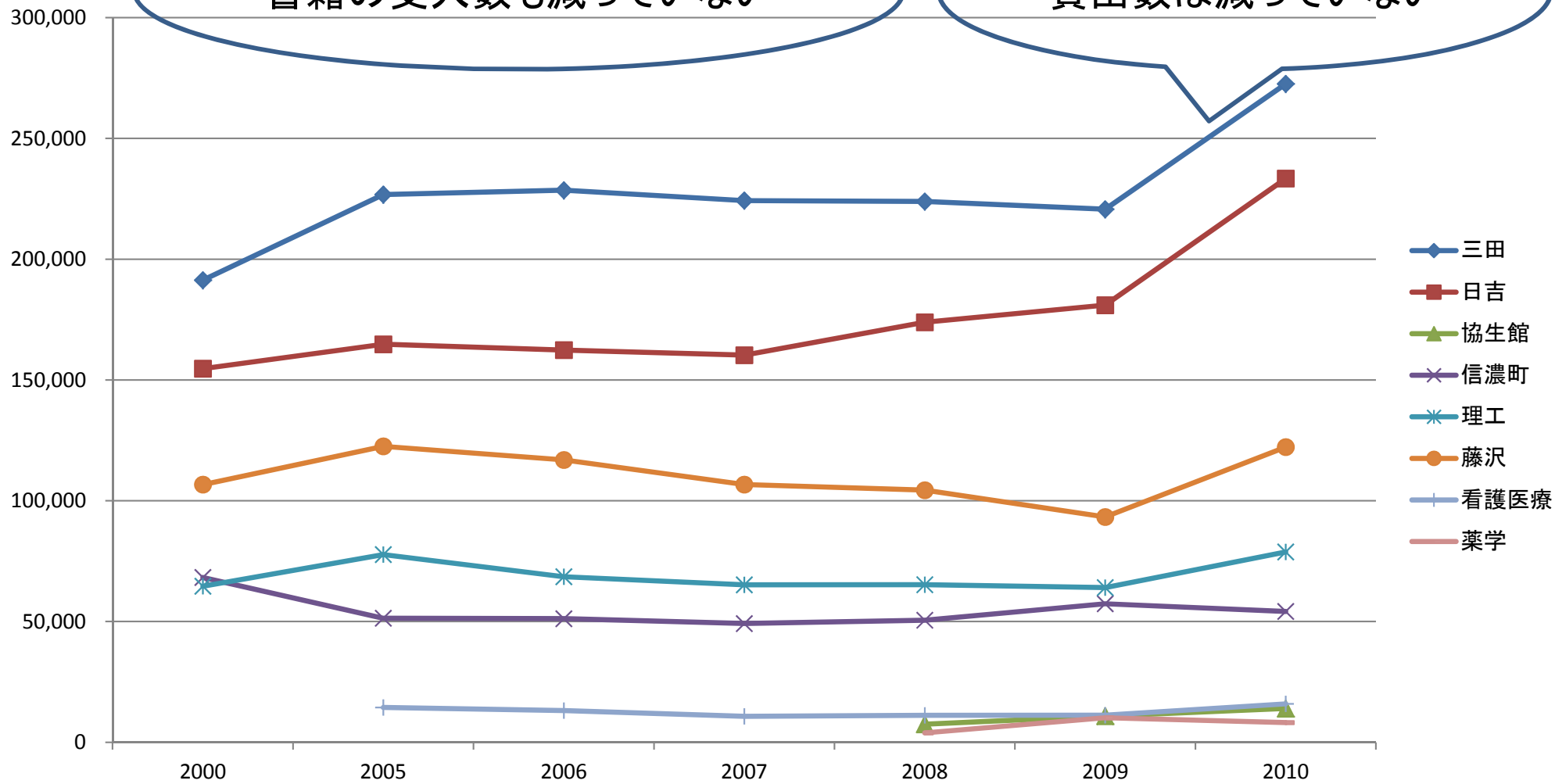
一社あたりの購入額



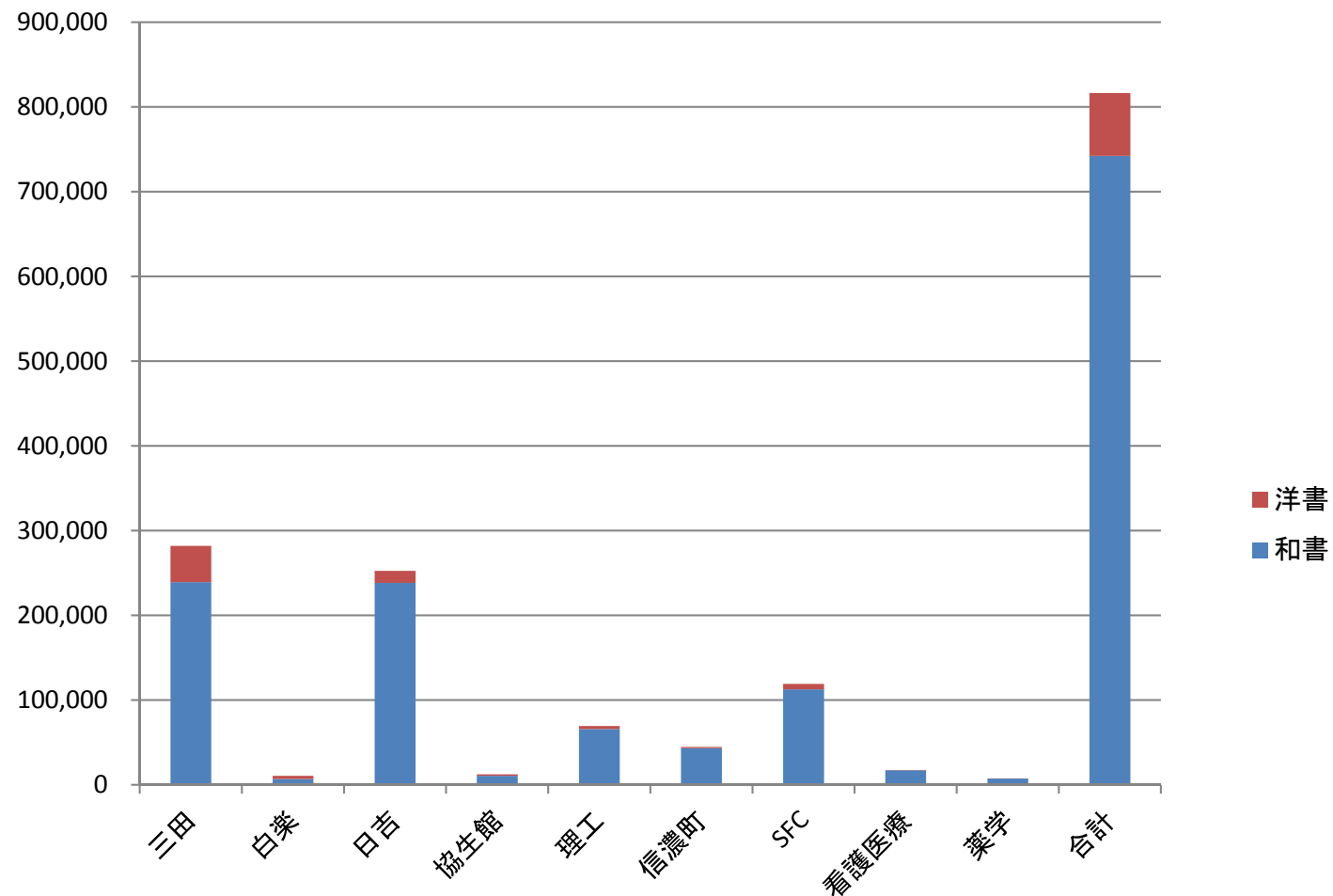
貸出数の90%近くが和書 この管理コストへ減らない

書籍の受入数も減っていない

貸出数は減っていない



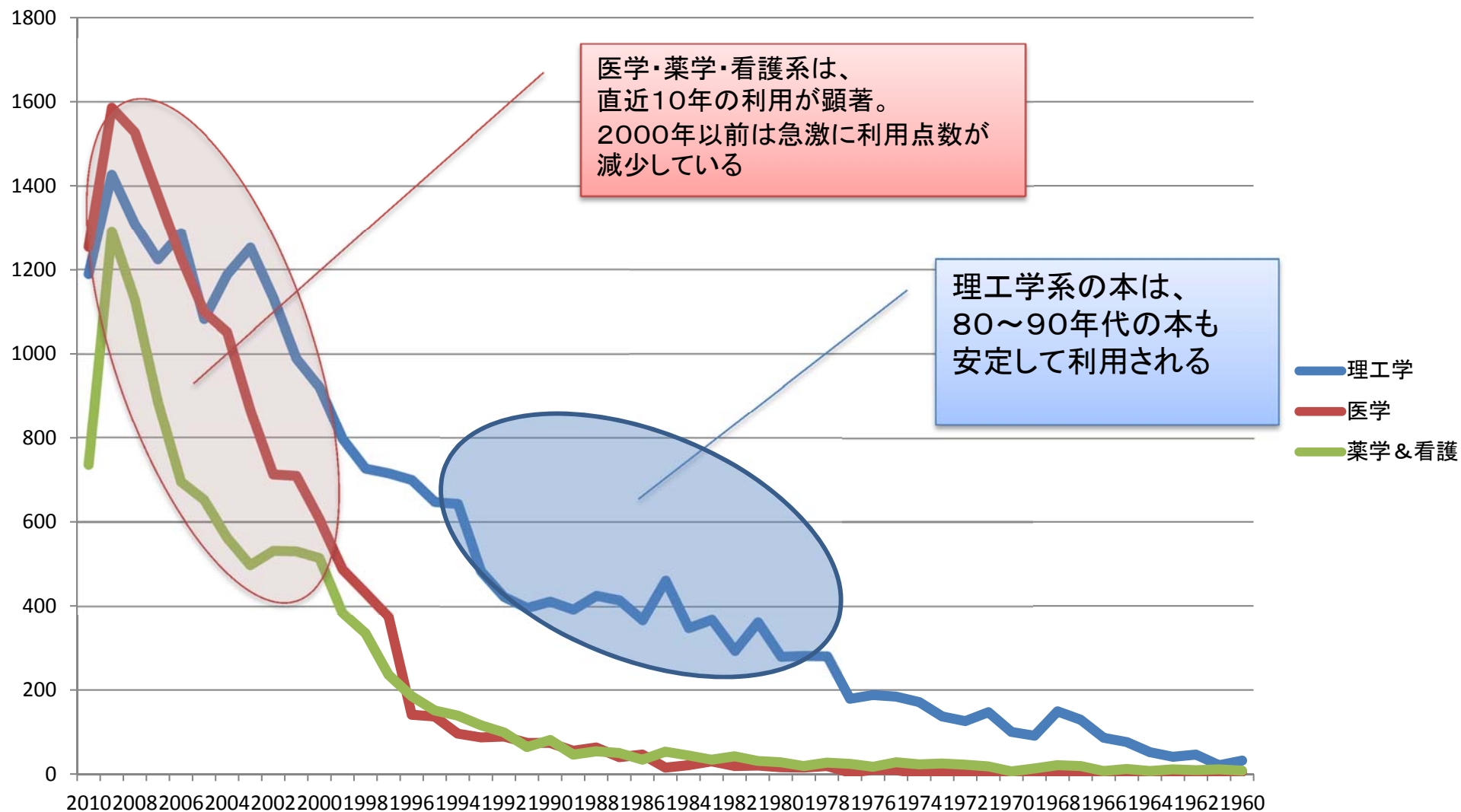
2010年度 地区別 和洋別貸出数



大学図書館では古い資料も貸出されている

貸出される図書の出版年分布

科学・技術・医学・薬学・看護

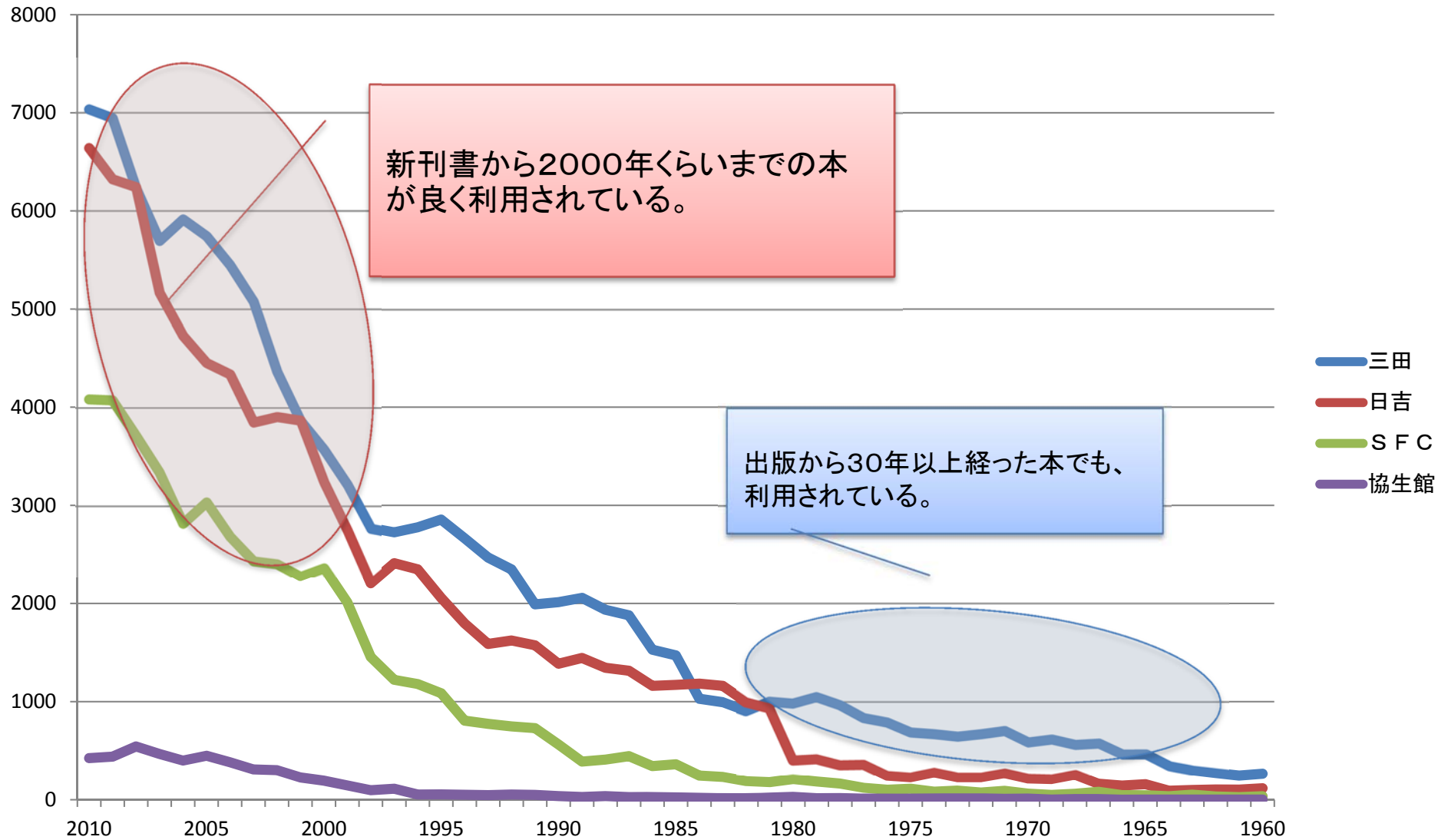


2010年度1回以上貸出のあった本の出版年別

大学図書館では古い資料も貸出されている

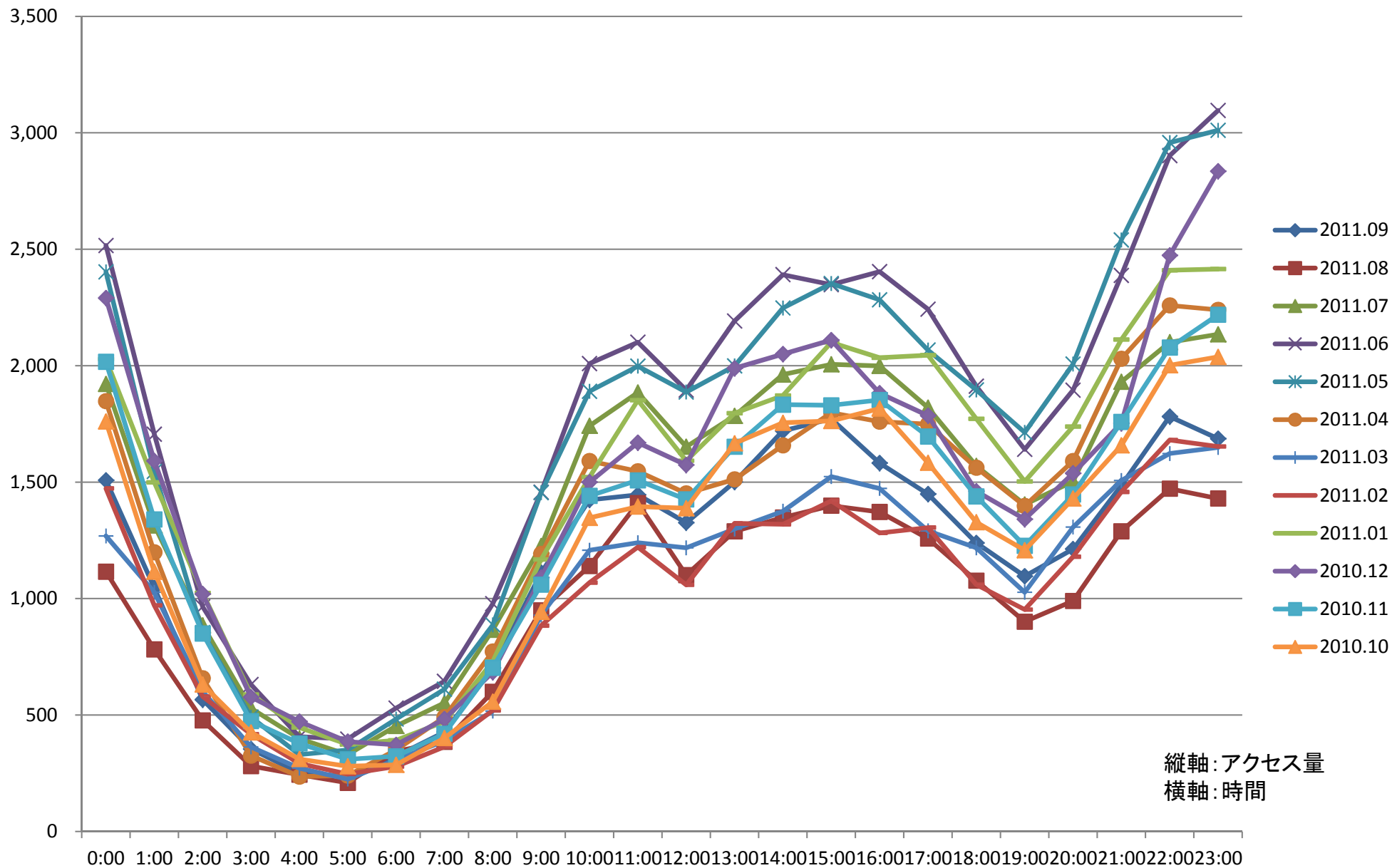
貸出される図書の出版年分布

人文・社会系・学際研究

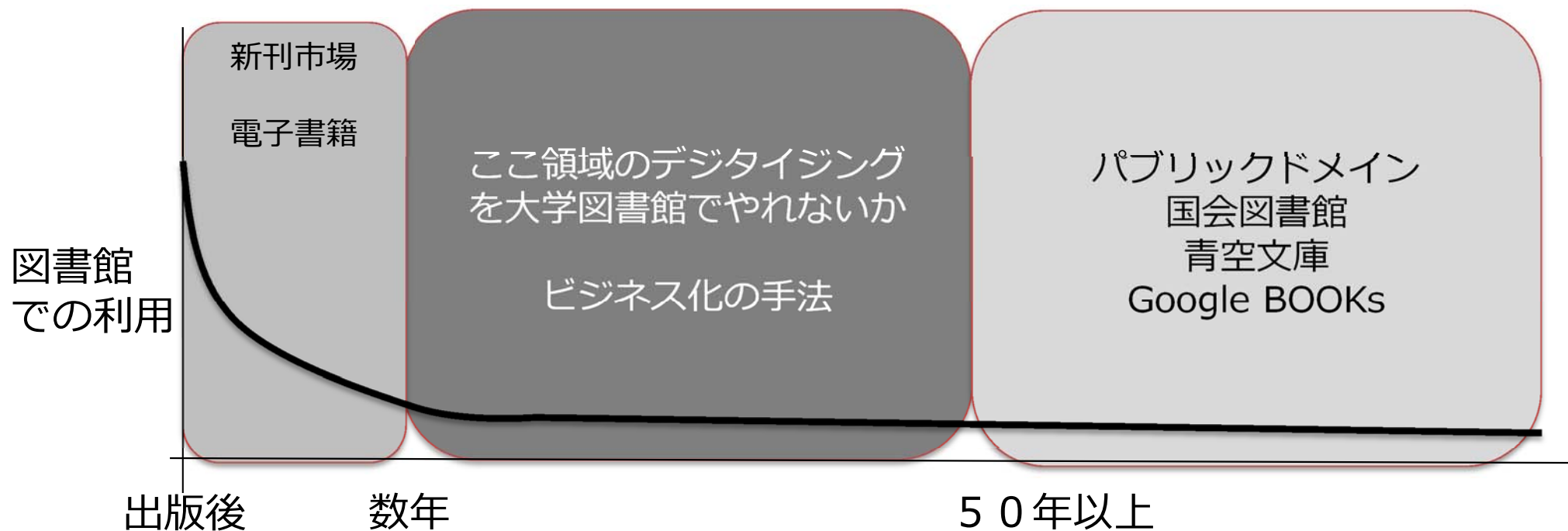


オンラインで提供すると 電子資料は24時間利用される

時間帯別 リモートアクセス(認証経由でのアクセス)数



和書の電子化を進めていくためのスキーム 全ての学術情報がまとめて電子で利用したい



大学出版会と大学図書館の連携による

「新しい学術情報流通の可能性を探る」

日時*3月12日(水) 午後2時~5時
場所*慶應義塾大学三田キャンパス東館6階 G-SEC Lab
<http://www.keio.ac.jp/access/mita.html>

出版社と連携して 和書の電子化を進めてみよう

図書館と出版社はお互いに 理解していない

相互理解 相互協力が新しく 進めていくための基盤

大学内で生産された研究成果を発表する必要性がますます高まる中で、ともに学内における知的生産物の発信と流通を担っている大学出版会と大学図書館の役割・使命が、昨今のデジタル技術の発展とも相俟って、大きく変化しようとしています。

これまで書物を収集・提供することを主要な任務としていた大学図書館は、IT技術の発展を背景に、デジタルアーカイブや論文オンデマンド、あるいは機関リポジトリにとりくみ、単に書物の収集や保存・提供のみではなく、学内の知的生産物の組織化・発信にもその活動の範囲を広げています。一方で、日本の大学出版会はこうしたデジタル化の趨勢のなかにあつて、伝統的な紙の書物に代わる有効な出版モデルを作り出すにはいたっていません。欧米のEジャーナルの盛隆と比して、自らが刊行するモノグラフのデジタル化には十分に踏み出していないのが実情です。もっとも、学術情報のデジタル化をめぐる状況は、新旧様々なセクターが参画し、セクター間の利害対立なども孕みながら複雑な様相を呈しているため、未だその安定的な着地点は見えてきていません。

こうしたデジタル環境下にあつて、伝統的に学術情報流通の一翼を担ってきた大学出版会と大学図書館が、研究者、利用者のニーズに応えるために新たな連携をすることは、果たして可能なのでしょうか？ 可能だとしたらその提携は関係者にどのようなサービスを提供できるのでしょうか？

本シンポジウムでは、いくつかの具体的な事例を踏まえながら両者の連携の可能性を探ります。

第1部〔事例報告〕 学術情報発信システムの再構築に向けて—各大学の試み

- 1、京都大学における連携から見えるもの
——可能性と近未来 京都大学学術出版会 鈴木 哲也
- 2、慶應義塾大学での取り組み
慶應義塾大学メディアセンター本部 入江 伸
- 3、早稲田大学での新しい取り組み
早稲田大学 練早稲田総研クリエイティブ社長 安 修平

第2部〔パネルディスカッション〕 新たな学術情報発信における出版会と図書館の連携

| | |
|------------------|-------|
| 東京大学附属図書館長 | 西郷 和彦 |
| 早稲田大学図書館長 | 加藤 哲夫 |
| 慶應義塾大学メディアセンター所長 | 杉山 伸也 |
| 東京大学出版会 | 竹中 英俊 |
| 慶應義塾大学出版会 | 小磯 勝人 |
| 京都大学学術出版会 | 鈴木 哲也 |
| (司会)東京電機大学出版局 | 植村 八潮 |

- 参加費：無料
- 参加申込み方法：件名へ「20080312_libup シンポジウム参加申込み」と記載し、所属、氏名を記載の上、下記メールアドレスへ申込みください。

20080312_libup@lib.keio.ac.jp

- 定員：100名(事前申込み順)
申込みが多数で参加いただけない場合のみご連絡いたします。

取組の経緯

- 2006年からリポジトリ運用に向けて出版社・印刷屋との協力関係の構築
- 2008年 大学出版会・図書館の連携シンポジウム
- 2009年 Google Library Projectでの成果物の利用 電子教科書プロジェクト案作成プロジェクトプレーヤの決定
- 2010年 電子学術書プロジェクト開始
 - 出版社への説明、協力要請
- 2010年10月 利用実験開始

電子学術書取組の契機

電子学術書利用実験プロジェクトの背景

- 国内の学術書の電子化の遅れ
 - iPad 電子書籍元年
 - BtoC だけの電子書籍モデルだけでなく図書館モデルも必要
 - 電子書籍の図書館向けモデルの実証
 - 海外学術出版社の電子資料の進展
 - 欧米出版社の電子ジャーナルの進展
 - Google Library Project の進展
 - 中国・韓国の電子化プロジェクトの進展
 - 図書館が学生の生活スタイルがわからなくなっている
 - 関係するプレイヤーを集めて実験しよう
-
- 学生の生活Styleの変化
 - 図書館中期計画へ向けた統計と貸出ログ分析
 - 国会図書館大規模電子化
 - 3省デジ懇 知デジ デジタル出版機構 緊デジ
 - 待ってるだけでは進まない なんか動いてみよ
 - 図書館だけではできない だれと組むか？

電子学術書利用実験プロジェクトの目的

- なんとか国内で和書の電子化を進めていきたい！
- 日本語の学術出版物の電子化推進
- 実際の利用環境をつくって、学生に使ってもらい、ビジネス化の可能性を考える
- 国内学術出版社とのコラボレーション
 - 出版社へ貸出ログを提示して図書館での利用を理解してもらう
 - 大学図書館の現状、洋雑誌はほとんどが電子であるという状況
 - 学生は、インターネットで全文が読めることが当たり前だと思っていること
 - 大学図書館の要求仕様を明確にして、電子化コストを自炊なみにし、学術用プラットフォームを構築したい。
- 学術出版社と大学図書館とのビジネスモデルの検討
 - 学生・教員のニーズ調査と教育改革からの要望調査
 - 学術出版社における書籍企画(教科書) 教育素材ビジネスの可能性
 - 大学図書館への電子書籍の提供が紙のビジネスへ影響
- 電子教材・電子教科書・電子素材の検討についても考えていきたい

電子学術書利用実験でのプレーヤー

コンテンツ

- ・ 電子書籍化するタイトル選定
- ・ 電子化に伴う権利処理
- ・ 実験期間中の無償提供

オーサリング

- ・ 書籍のデジタル製版
- ・ データフォーマット
- ・ One Source Multi Use 実験

著者・教員

大学図書館

- ・ よく使うタイトルの選定
- ・ 被験者、実験場の提供
- ・ 利用者の意見を集約

学生の学習方法・
生活スタイル
の変化

教育改革

システム

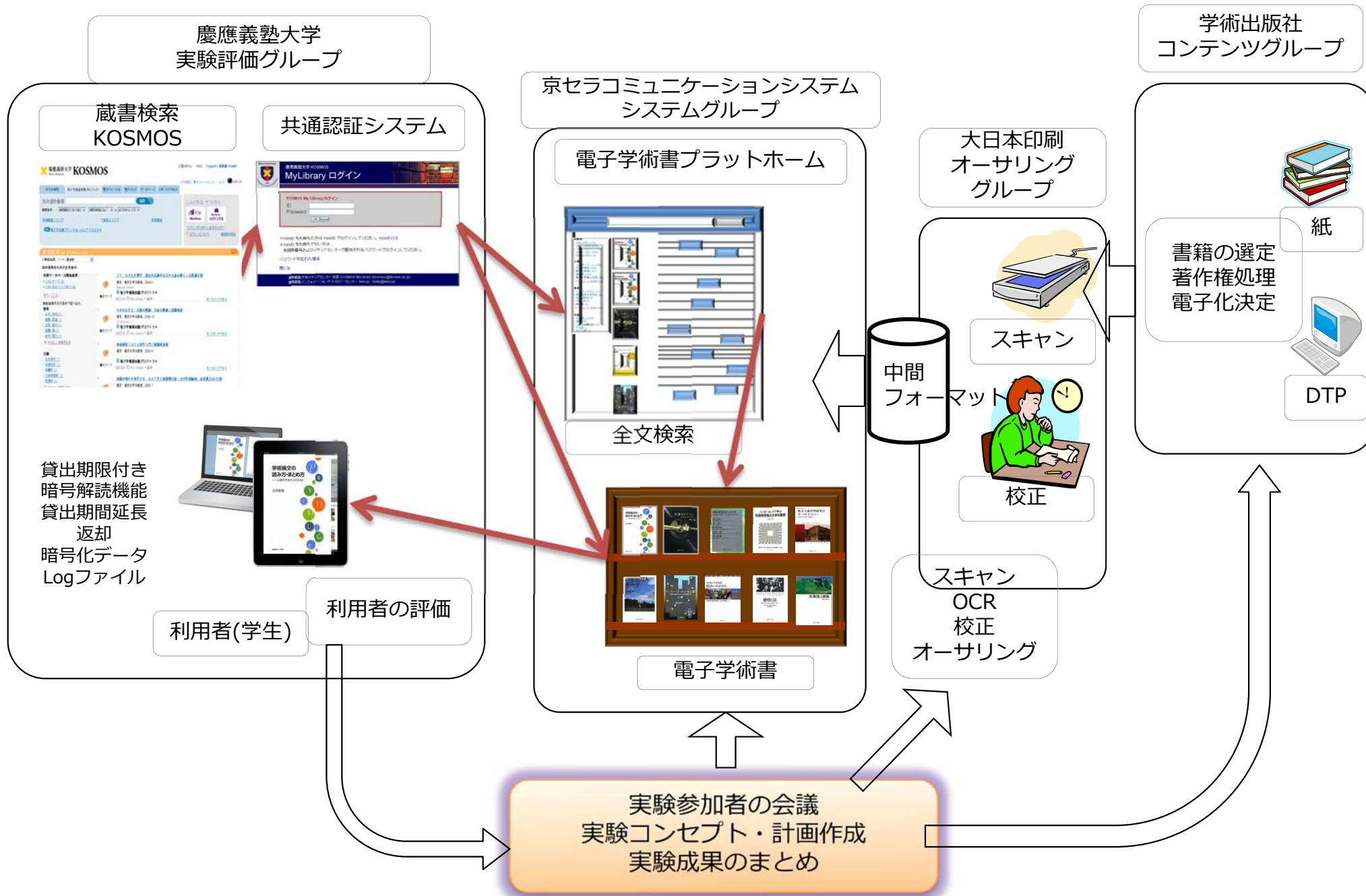
- ・ ビュアー マルチフォーマット
マルチデバイス
- ・ 書籍データの管理・配信
- ・ 合理的なDRMと利用ログの集積

生活スタイル 就職

出版社連携を前提とした システムコンセプト

- 電子書籍の期間限定ダウンロード型
- DRM機能の実装 – KCCCSへの依頼
- 電子書籍の貸出システム
 - 暗号化をしてダウンロード
 - 貸出期間を経過すると失効して削除
- 印刷機能は付けないで、PODと連携

実験モデルのシステム



④貸出期間：図書館で本を借りるのは

予想より低い

| 第2期 | 自分で購入した本 | 図書館で借りた本 | 友達から借りた本 | データベース(大学提供) | ネットの情報 |
|-------|------------|------------|----------|--------------|------------|
| 授業 | <u>70%</u> | 27% | | | 3% |
| レポート | 3% | <u>68%</u> | | 5% | <u>24%</u> |
| 定期試験 | <u>46%</u> | <u>43%</u> | 5% | | 5% |
| 研究 | 30% | <u>38%</u> | | <u>32%</u> | |
| 個人の勉強 | <u>65%</u> | 22% | | 5% | 8% |
| 趣味・娯楽 | <u>38%</u> | 27% | 3% | | <u>32%</u> |
| 第3期 | | | | | |
| 授業 | <u>47%</u> | 33% | 3% | 6% | 11% |
| レポート | 3% | <u>75%</u> | | 14% | 8% |
| 定期試験 | <u>42%</u> | <u>42%</u> | 11% | 5% | |
| 研究 | 11% | <u>47%</u> | | <u>36%</u> | 6% |
| 個人の勉強 | <u>67%</u> | 28% | | | 5% |
| 趣味・娯楽 | <u>36%</u> | 8% | | 6% | <u>50%</u> |

C-3b. C-3aの中で、授業で指定された資料(教科書・参考書等)にいくら使いましたか？

| 金額 | 0 | 1～ 4,999 | 5,000～ 9,999 | 10,000 ～ 19,999 | 20,000 ～ 29,999 | 30,000 ～ 39,999 | 40,000 以上 |
|----|-----|-------------|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------|
| 人数 | 9名 | 5名 | 5名 | 9名 | 4名 | 2名 | 2名 |
| % | 25% | 14% | 14% | 25% | 12% | 5% | 5% |

- 総数 : 36名
- 金額 : 0円～40,000円
- 冊数 : 0冊～20冊
- (平均 : 約5冊、約11,000円)

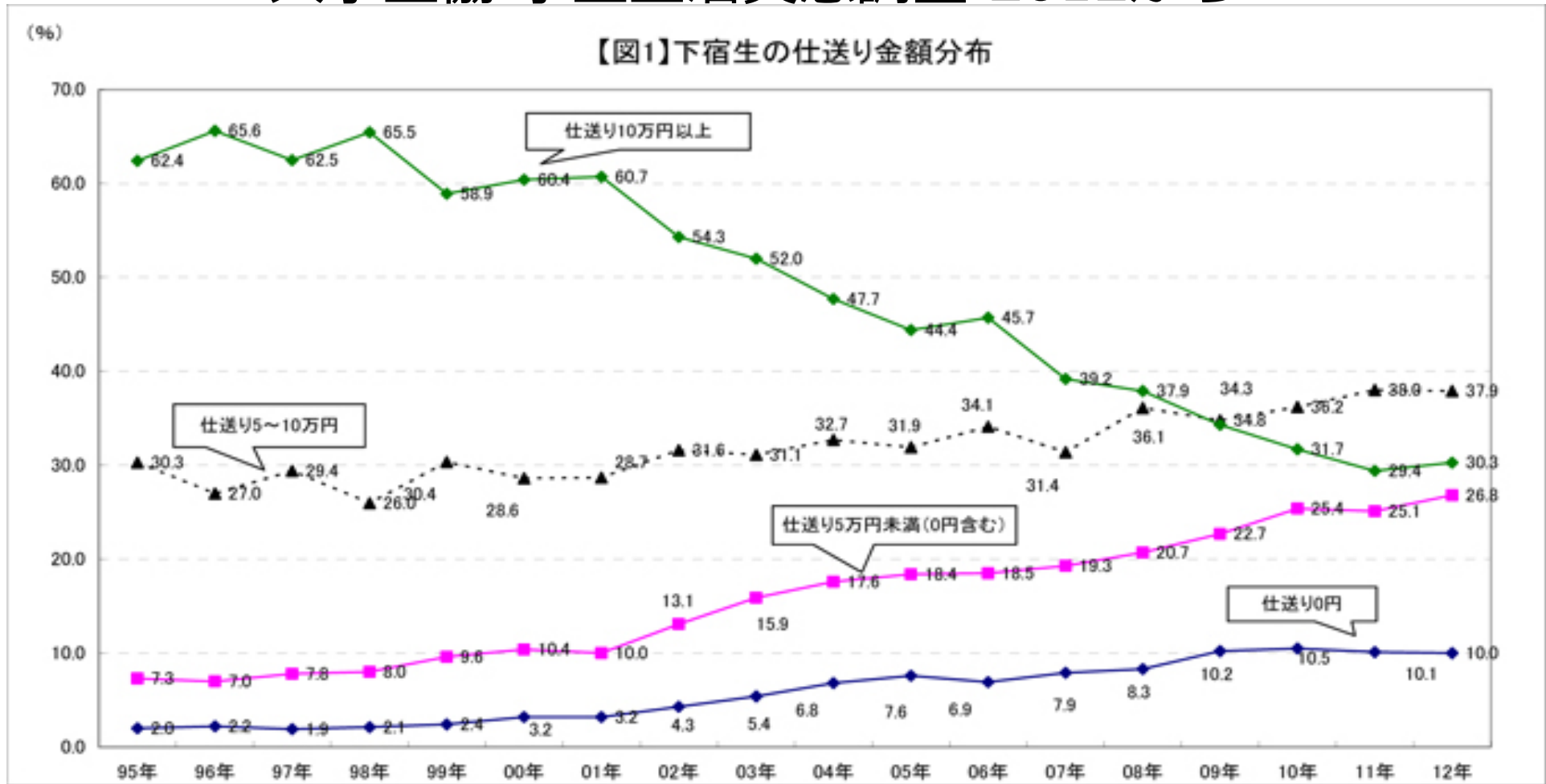
利用実験プロジェクトについて学生からの意見・感想

- **図書館の形態を変え、利便性を向上させるために重要なプロジェクト**だと思う。電子ブックが普及し、いつでもどこでも勉強できる環境が整うことを期待しています。
- 電子図書館の制度自体は本当に便利でぜひ実用化されてほしいので、より使いやすく・便利でみんなに使ってもらえるように**協力できたら嬉しい**と思います。
- **たいへん真摯に電子書籍のあり方を研究なされているようで、驚きました。**
この程度のアンケート内容で良ければ、再びお尋ねください。
私も、電子書籍の今後がどうなるのか関心が湧いてきました。
- おもしろい。修論を書く時期になって、ようやく論文を書くために本を使うという使い方が試せた。毎回アプリケーションが改善されていてうれしい。
- 毎回参加していますが、どんどん改良されており、技術進歩に感動しております。今回で最後とは思いますが、**このままいけば慶応で広く普及するのではないのでしょうか？**応援しております。参加させていただきありがとうございました。
- **とても役に立っただけに、これからの不便さが思いやられます。**私はiPad等は持っていないので、PCで使える電子ブックを早く増やしてほしいです。
- 電子ブックを利用する機会を持ててよかった。今後も電子ブックを利用していきたいと思った。
- **どんなに使いやすくてもコンテンツがなければ意味がありません。ぜひ、これから多数の本を電子化して利用できるようにしてください。**多数の有用な電子書籍が使いやすいUIで利用できるサービスならば、有料でも利用したいと思います。

学生インタビューで感じたこと

- モニター学生は図書館によくいる勉強している学生
- 学生は現実を踏まえ紙とデジタルをうまく使い分けている
 - 全部読むものは紙 買うことが多い
 - 調べるのはデジタル 図書館を使う
 - ICTを活用した教育をすでに実践している
- ノートがクラウドに変わりつつある
- 電子資料はWebコンテンツの一部、マイクロ化し編集される。
- Evernote DropBox スキャン 自炊 は当たり前
- デジタルの使い方
 - 授業で使ったメモをした教材やノートはまとめてPDFにしてDropBox
 - 共有は電子
 - 調査したメモはevernote に
 - コピーは 10円 PCプリントは5円 節約のため PDFにするか縮小して印刷
- iPad2から 持っている学生が増えている
- 蛇足
 - 研究者の多くが自炊している 自炊屋さんで多いのは学術書
 - 電子の利点は、再利用と双方向、軽さ

利用実験で感じたもう一つのこと 大学生協 学生生活実態調査 2012から



2011:収入合計は90年以降最低に。「仕送り」は引き続き減少。9年間増加していた「奨学金」も減少した。「食費」も最低金額を更新し、76年(22,970円)並みに。
2012:厳しい経済状況が固定化し、奨学金も減少。収入増はアルバイトに頼る しかし暮らし向きは「楽」が大幅増加、今後の見通しも好転

- 厳しい生活 教育費の高騰
- 企業からの厳しい要求と厳しい就職 (国際競争・即戦力)
 - 理工学部の院生:就職したら日本にいれないので、日本語の本を海外から読みたい
 - 中国 方正集団の話「方正の電子書籍は世界にいる中国人に中国語の書籍を提供すること」

慶應実験から共同実験へ

- 共同実験の目的
 - 慶應だけの評価から複数大学の評価へ
 - 貸出ログのまとめ
 - ビジネスモデルの検討
- 参加図書館 名古屋 神戸 奈良先端 福井 東大 慶應
- オブザーバ 国会図書館 東大情報学環美馬先生
- 出版社 23出版社
- 書籍 1000冊 + YDC1000
(現在増えています)
- デバイス iPad Androido iPhone PC

学生の生活スタイル・教育改革 から図書館を考える

医学部での取組紹介の紹介

- 今年度から2年生にiPadを配布しました。
- そのサポートを学生委員会がやっています。

- 参考URL

- 慶應医学部生の記事

<http://style.carenet.com/11587-1>

<http://style.carenet.com/11587-2>

iPad サポート学生委員会

<http://medicaleducation.jp/about/>

連携した図書館のガイドページ

http://libguides.lib.keio.ac.jp/snm_igaku2

libguidesのうまい使い方だと思えます。

iPad サポート学生委員会

- 慶應義塾大学医学部は、新しい医学教育を目指し、2013年度より学生に順次iPadを配布していくことになりました。
- 初年度にあたる2013年は、医学専門教育科目が始まる新2年生全員にiPadが配布されました。iPadを教デジタルハブとして、キャンパス内のWifi環境の改善、電子リソースの充実、電子教材の開発を並行しておこなうことによって、デジタル、インタラクティブな新しい学習環境を目指しています。
- iPadサポート学生委員会は、iPad導入に合わせて医学部学生によって組織されました。医学教育統轄センター教員との協力のもと、すでにiPadに習熟している医学部学生有志が、同級生、下級生のiPadの利用のサポートをおこないます。
- 医学専門教育科目が始まる第二学年では医学の基本となる組織学、解剖学、発生学などの基礎・社会医学系科目を履修します。各科目とも実習が多く、電子教科書、音声・動画教材、アプリケーションを始めとしたテクノロジーがより深い学習を推し進めます。解剖学教室をはじめとして、多くの教室が、iPad導入に向けた教材の開発、アプリケーションの開発を進めています。
- さらに、学生という早い時期からデジタルタブレット端末に触れることは、学生のITリテラシーを高める目的も達成されます。学生から医学情報をタブレットで扱うことで、医師になれば、必ず必要となる医療情報管理能力が養われます。
- iPadサポート学生委員会は、近年の急速にデジタル化が進む医療界で、将来の医師に向けて21世紀の医学を学ぶ環境を整備するためのサポートをしていきます。

図書館の役割はどうか

- 授業に合わせて利用できる資料の準備
- アクセスルートの整備



iPad 学生サポート委員会



医学部用ガイド



図書館OPAC



現状での問題

- 和書の電子書籍が圧倒的に不足
- 教材をつくるための素材の著作権処理ができない

デバイスの使い分け

PC

レポートを書く、論文を書くといった作業はPCで行うため、PCでも使いたい。
できれば、複数冊数同時に開けるシステムがよい

タブレット

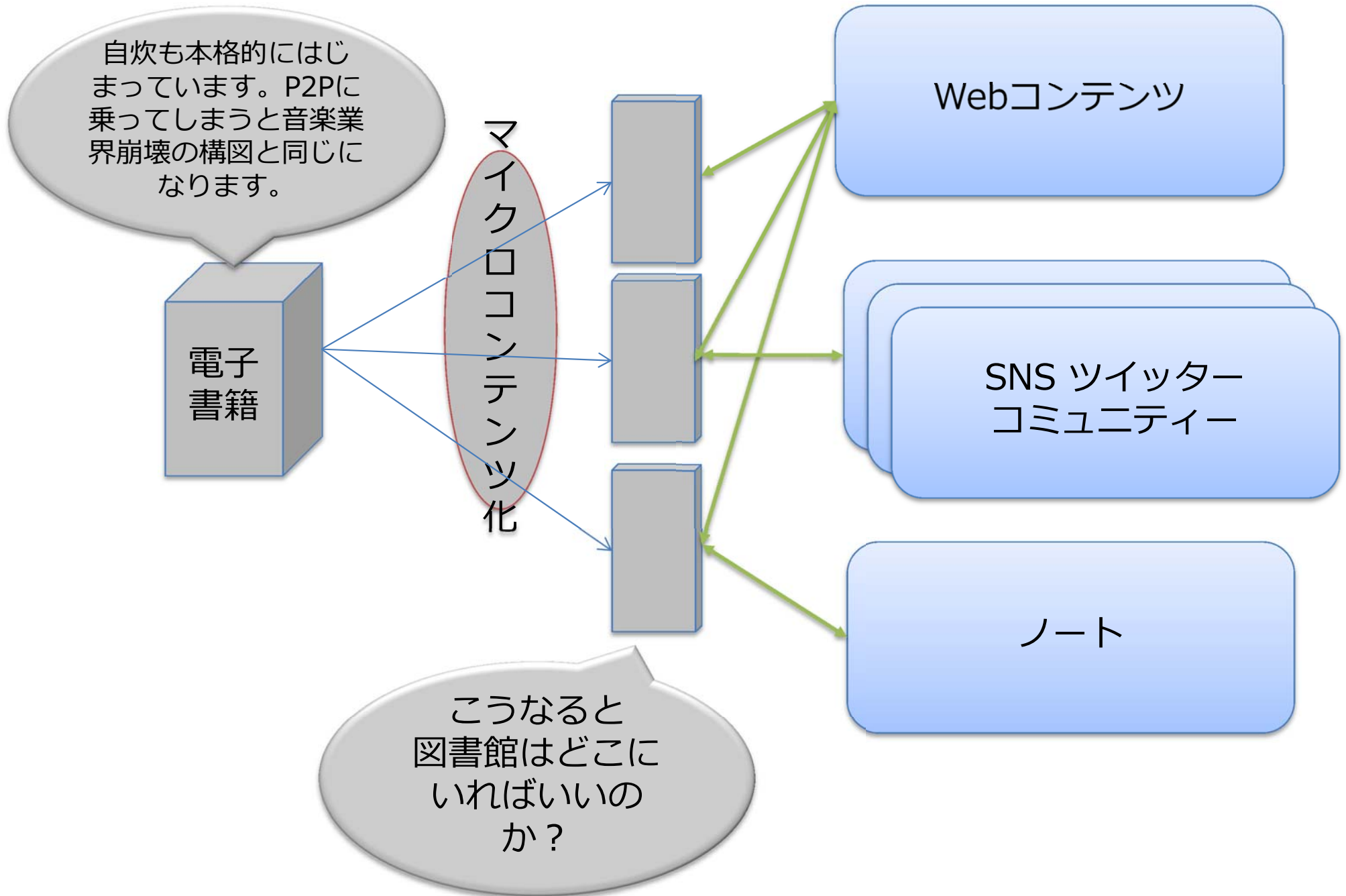
スマホとパソコンの間を埋めてくれる。
少し腰が落ちつけば、タブレットがいい。
電車の中で読むには重いが、
何冊も本を持ち運ぶよりはいい

スマートフォン

移動中にチェックしたい、確認するために
スマホでも利用したい。
まわりの友達は6割くらいはスマホを所有

端末間同期 II 実装済

電子学術書は Webコンテンツとなって流通する



最近の出版社への個人的な提案

- 出版社の生き残りだけ考えていても、生き残りはできない。
- 教育と学生のためにも、電子のビジネスをたちあげるために改革という意識が必要で電子化はビジネスの再編・改革が必須となる。
- 出版環境と学生のスタイルも変化、教育改革を前提に考える必要。
- マーケティングとして学生の生活スタイルの変化・学習方法の変化を理解し、ニーズに応える必要がある。
- 学生は、将来の読者・購買層です。読者を育てるためにも生活スタイルに合わせてコンテンツを配信する必要がある。
- グローバル化が進めば日本語資料の重要性も変化するだろう。
- このまま何もしないと、図書館と同様に学術出版も教育・学生の変化についていけない時代遅れのビジネスになる。

技術的な課題

電子ジャーナルとはどんなもの 補足 OPACからGoogle BOOKS へのリンク

慶應義塾大学 KOSMOS
検索 | タグを見る

所蔵資料 電子ジャーナル 電子ブック 論文検索

学問のすすめ 検索

図書 検索語をどこかに含む 項目を特定しない In 全てのキャンパス

New Search/Clear 詳細検索

次の条件のものだけを表示

絞り込み
地区
日吉 (62)
三田 (44)
藤沢 (40)
白楽 (35)
理工学 (16)
看護医療 (10)
芝共立 (6)
信濃町 (5)
協生館 (4)

資料種別
電子ブック (Google Books) (4)

出版年
Before1971 (34)
1971~1982 (14)
1982~1993 (16)
1993~2002 (24)

105 検索結果 for 全てのキャンパス
もしかしてこの雑誌?

- 1 学問のすすめ / 小林康夫編; 米沢富美子著
東京:筑摩書房,1998.3
21世紀学問のすすめ;10
図書
全ての所蔵 詳細 タグ・レビュー その他のサービス
- 2 学問のすすめ / 大河内一男[ほか]著
東京:筑摩書房,1968.5
学問のすすめ;1
図書
全ての所蔵 詳細 タグ・レビュー その他のサービス
- 3 学問ノススメ / 福澤諭吉, 小幡篤次郎著
Google Preview
図書
全ての所蔵 詳細 タグ・レビュー その他のサービス
- 4 学問のすすめ / 福澤諭吉, 小幡篤次郎著
Google Preview
図書
全ての所蔵 詳細 タグ・レビュー その他のサービス

KOARA(リポジトリ MODS)をハーベスト
CINII APIを叩く

ここでURIが必須
ISBN以前はどうか？

<http://books.google.com/books?vid=KEIO10810265230>

+You ウェブ 画像 動画 地図 ニュース Gmail もっと見る ログイン

Google books 検索 フック検索オプション

学問ノススメ, 第1巻 (Google eブック)

★★★★★ 0 レビュー

内部を検索

書籍のプレビュー →

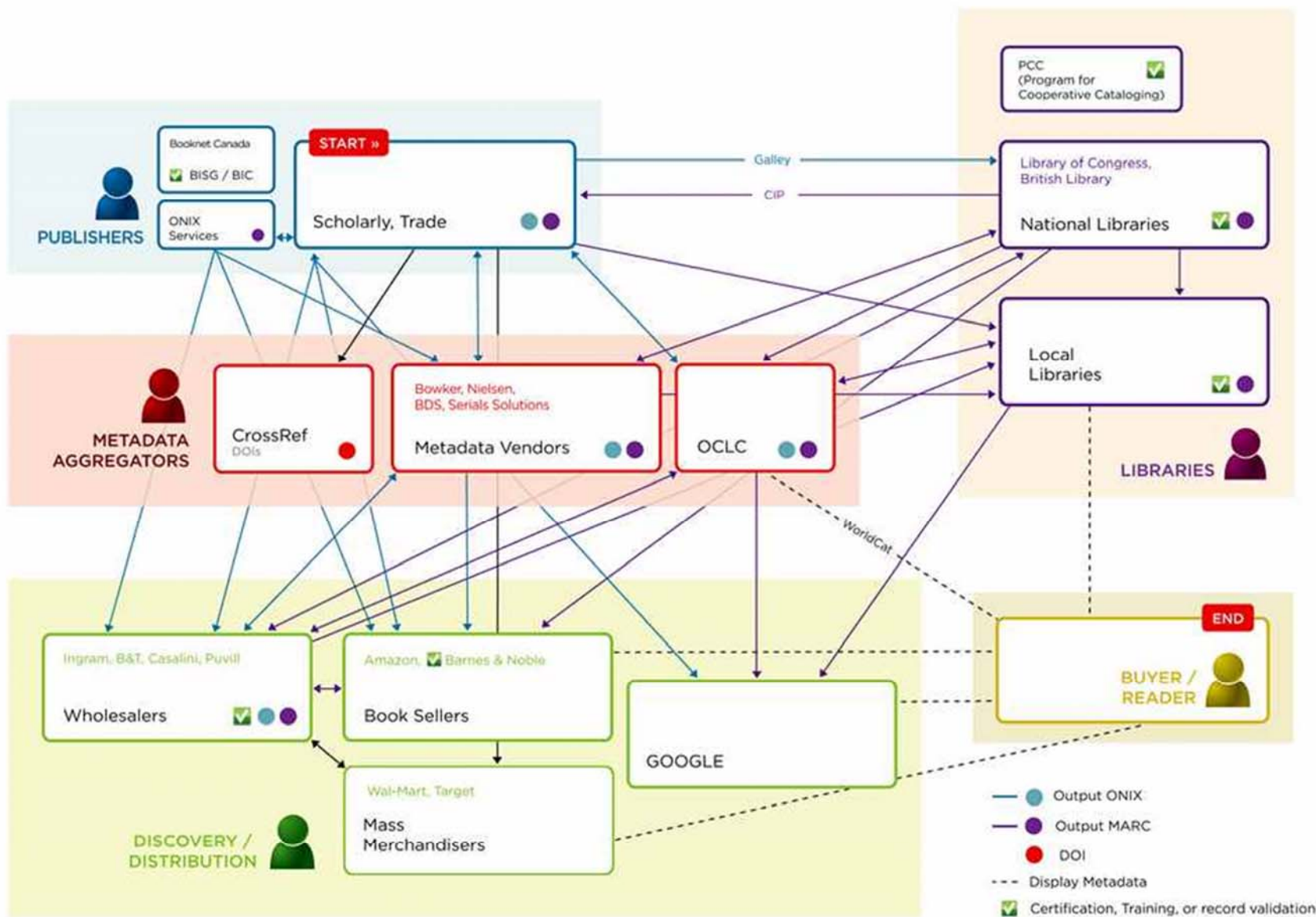
レビュー - レビューを書く
レビューが見つかりませんでした。

関連書籍

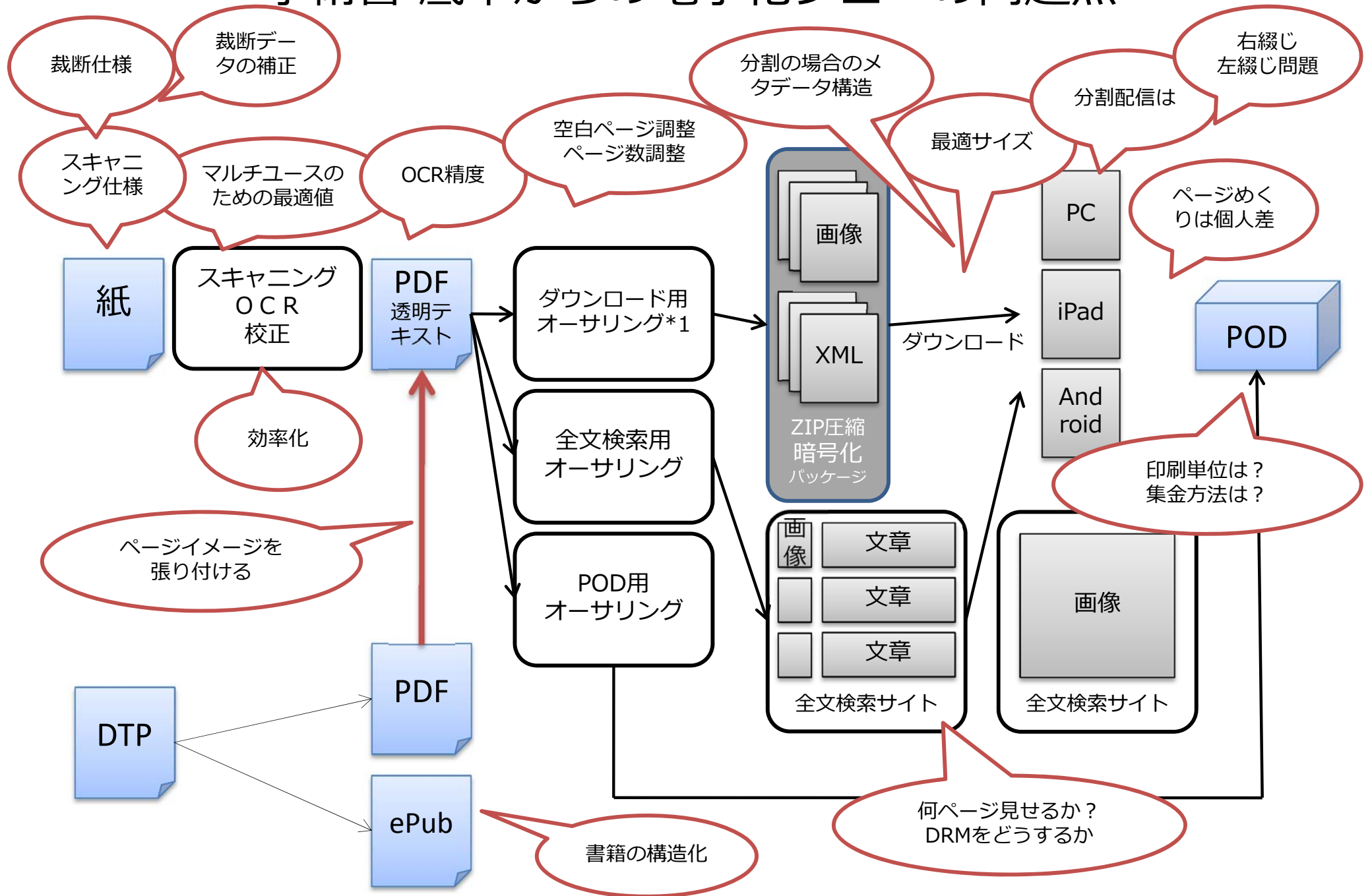
Google eブック
一度購入すれば、どこにいても読めます。
無料
大きい画面に最適です。
今すぐダウンロード
サンプルを表示
デバイスで読む

この書籍を購入
GOOP
On Demand Books
Amazon

共同実験で、出版社データをディスカバリーへ搭載して利用する実験を予定 Metadata flow

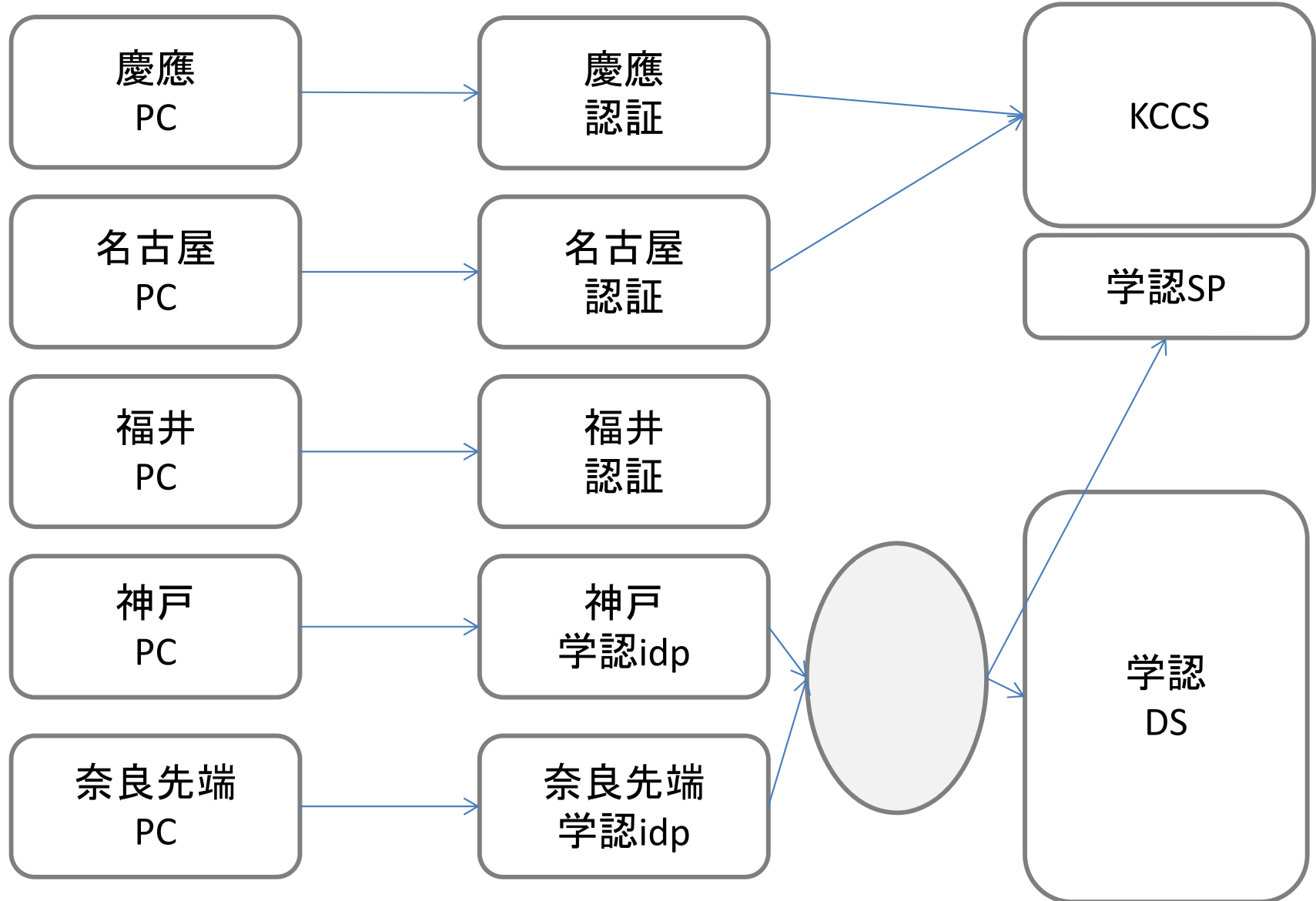


学術書 底本からの電子化フローの問題点

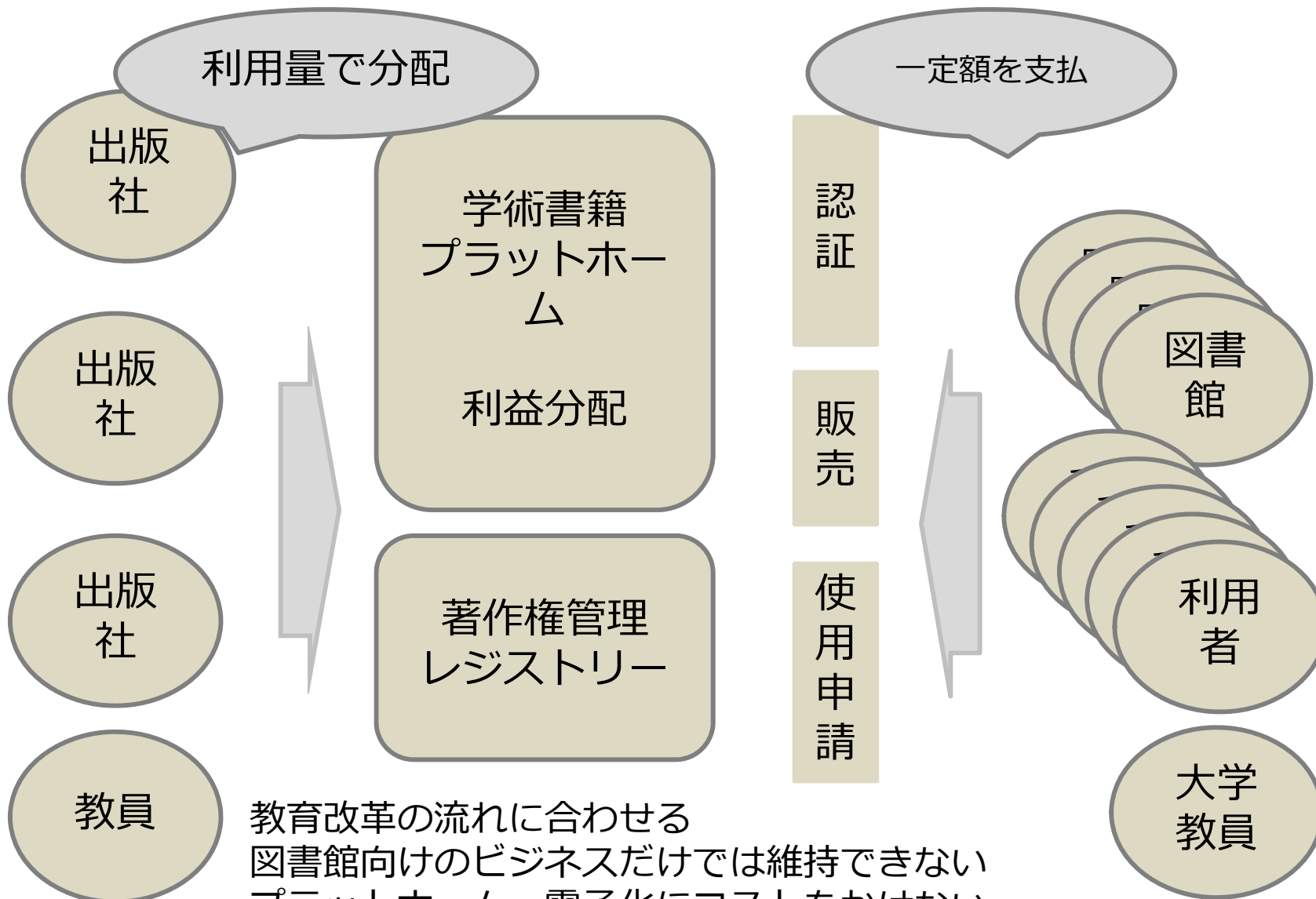


認証標準化の必要性

個人認証を前提とすると、参加大学が増えれば大変になる
認証環境を整備する必要がある



プラットフォームイメージ



教育改革の流れに合わせる
図書館向けのビジネスだけでは維持できない
プラットフォーム・電子化にコストをかけない
図書館の支払いは一定
出版社への配分は利用に応じて
著作権は教育目的で一定の制限を可能とする

最大の課題 著作権処理をどうするか

- キーワード
 - 認証空間 この中に閉じ込めることで権利制限
 - オプトアウト的視点
 - 文化庁裁定と著作権利用料金の担保機構
 - 教育利用での包括契約
- パブリックドメインの管理機構
 - オーフアンワークスの対応
- 法的な整備と同時に
教育関係者の連携した取り組みが必要